

(11) 協働のまちづくりについて

① 協働してまちづくりを進めていることへの満足感

問 14 北九州市では、市民や地域団体などと協働しておこなうまちづくりを進めるため、積極的な情報公開、情報発信を進めるとともに、市民の参画や協働をコーディネートする組織や区役所の機能強化などに取り組んでいます。そこで、おたずねします。

あなたは、北九州市は、自治会や町内会や NPO、ボランティア、企業などと行政が協働して（一緒に力を合わせ）まちづくりを進めていると感じますか。

N : 1,322 人

項目	回答数 (人)	割合 (%)
1 とても感じている	67	5.1
2 ある程度感じている	369	27.9
3 どちらとも言えない	449	34.0
4 あまり感じていない	276	20.9
5 ほとんど感じていない	96	7.3
無回答	65	4.9

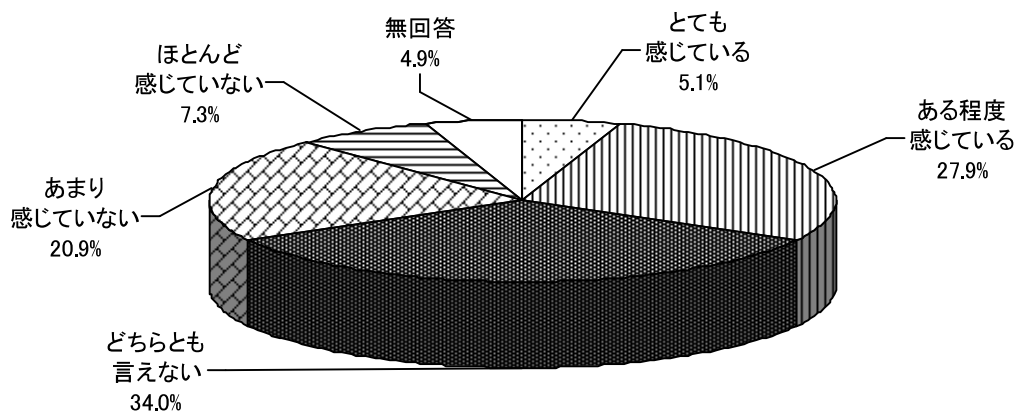
◇ 協働によるまちづくりが進められていることへの、市民の満足感は、

・肯定層 33.0%

(「とても感じている」5.1%+「ある程度感じている」27.9%)

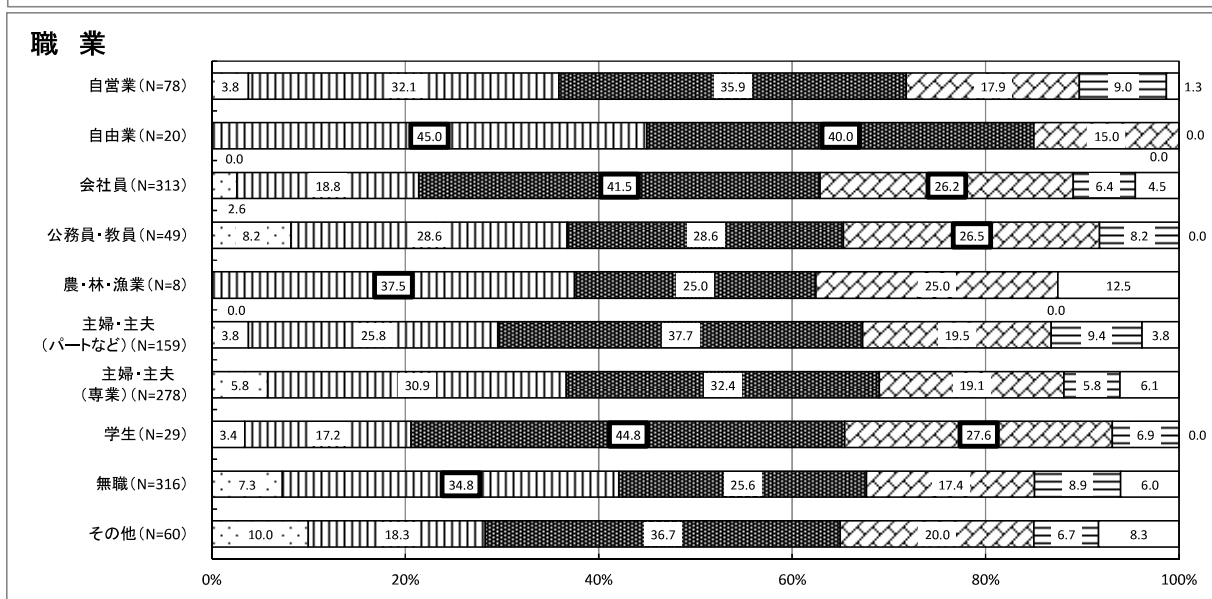
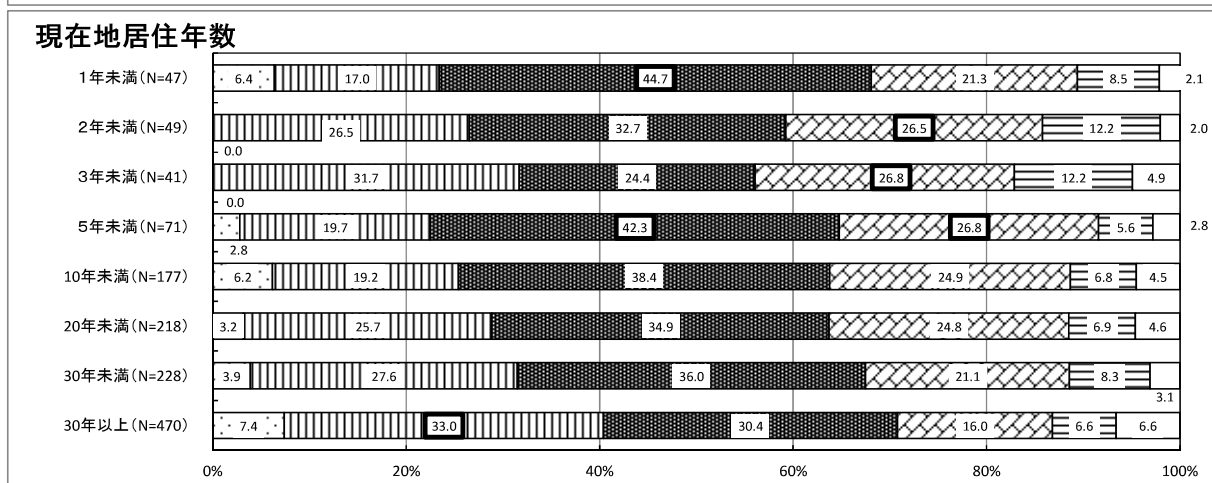
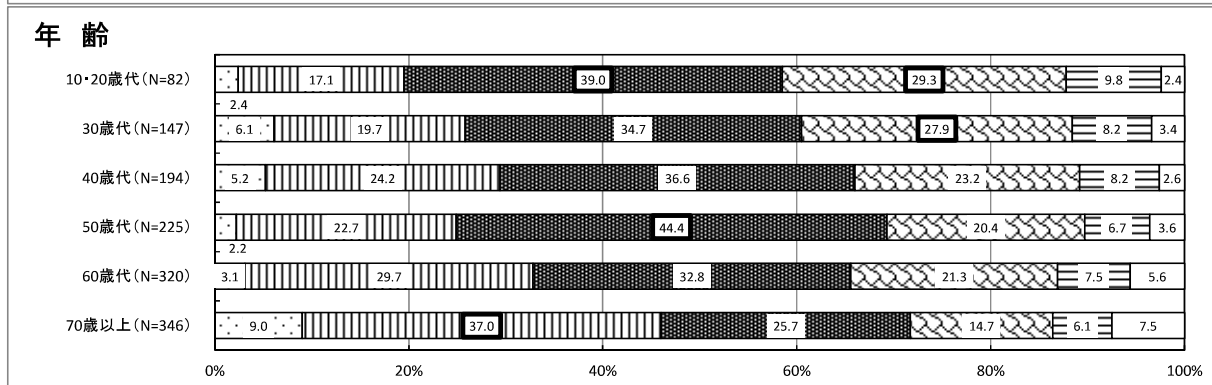
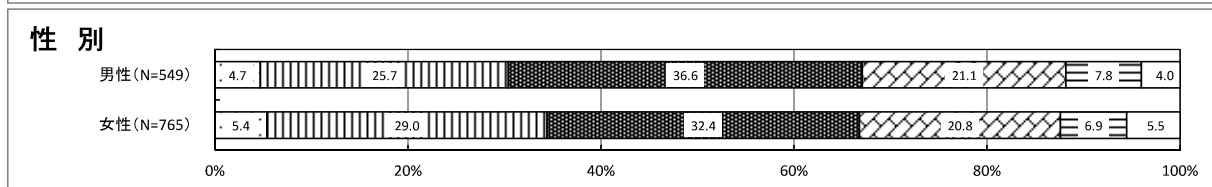
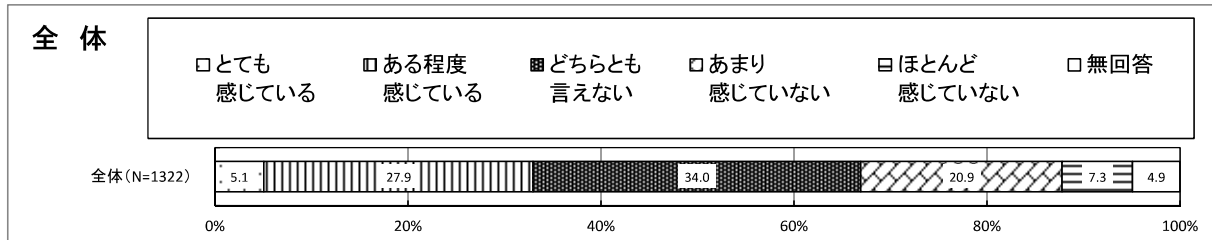
・否定層 28.2%

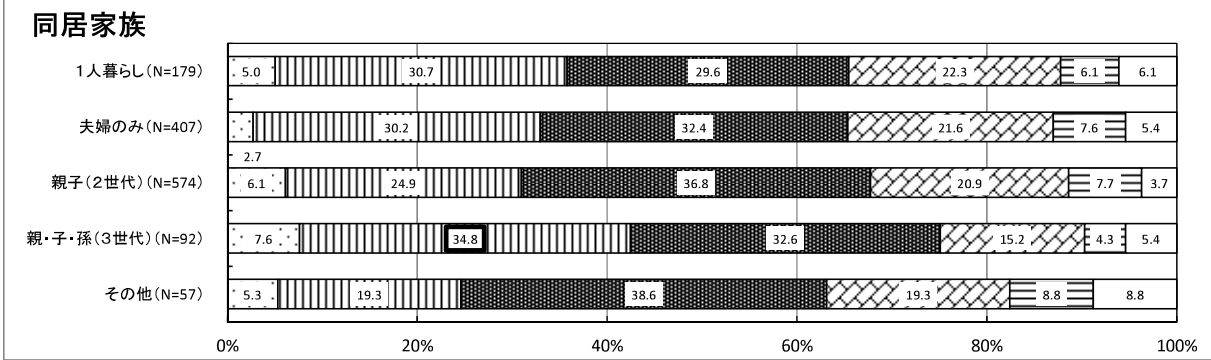
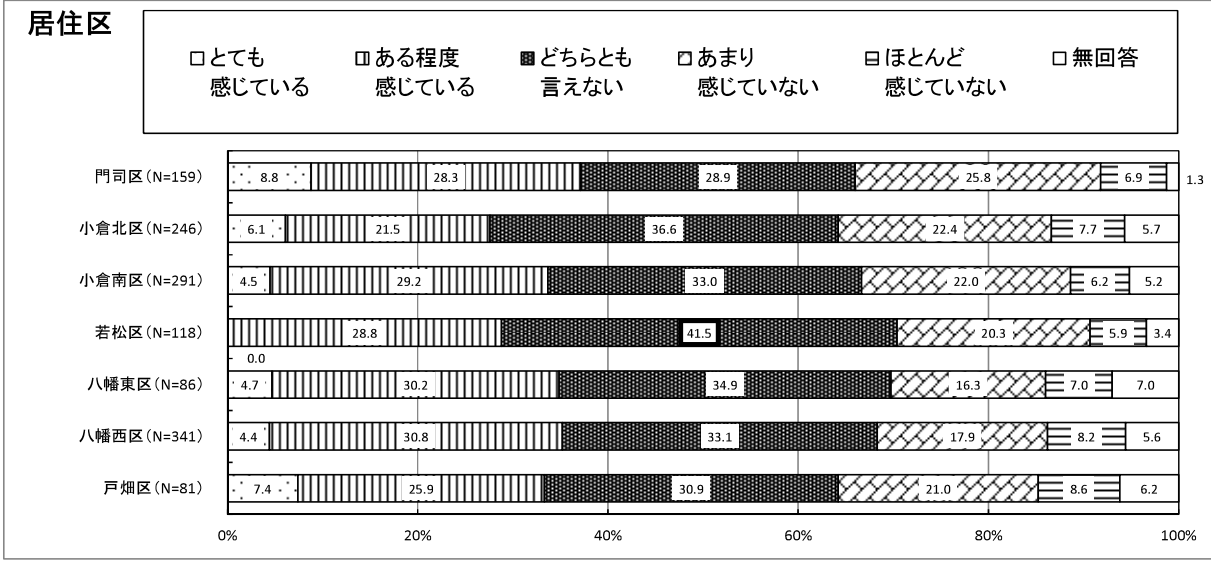
(「あまり感じていない」20.9%+「ほとんど感じていない」7.3%)



□ とても感じている	□ ある程度感じている	■ どちらとも言えない	□ あまり感じていない	□ ほとんど感じていない	□ 無回答
------------	-------------	-------------	-------------	--------------	-------

① 協働してまちづくりを進めていることへの満足感





(注) **太枠** 全体よりも5ポイント以上高いもの(「その他」「無回答」は除く)

② 協働してまちづくりが進んでいないと感じる理由

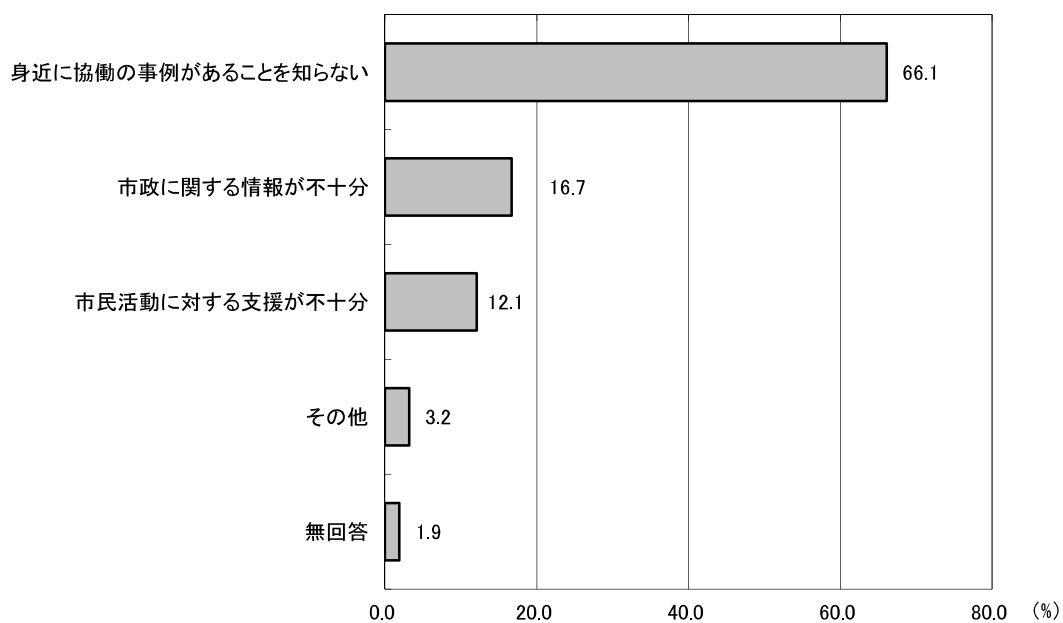
副問 14-1 (4もしくは5と選んだ)理由について、下記から主なものを1つまで選んで下さい。

N : 372 人

項目	回答数 (人)	割合 (%)
1 身近に協働の事例があることを知らない	246	66.1
2 市政に関する情報が不十分	62	16.7
3 市民活動に対する支援が不十分	45	12.1
4 その他	12	3.2
無回答	7	1.9

◇ 協働してまちづくりが進んでいないと感じる主な理由は、

- 1位 「身近に協働の事例があることを知らない」(66.1%)
- 2位 「市政に関する情報が不十分」(16.7%)
- 3位 「市民活動に対する支援が不十分」(12.1%)



② 協働してまちづくりが進んでいないと感じる理由

		サンプル数	身近に協働の事例があることを知らない	市政に関する情報が不十分	市民活動に対する支援が不十分	その他	無回答
全体		372	66.1	16.7	12.1	3.2	1.9
性別	男性	159	59.1	18.9	15.1	4.4	2.5
	女性	212	71.2	15.1	9.9	2.4	1.4
年齢別	10・20歳代	32	84.4	9.4	3.1	3.1	0.0
	30歳代	53	73.6	17.0	7.5	1.9	0.0
	40歳代	61	67.2	21.3	9.8	1.6	0.0
	50歳代	61	68.9	13.1	13.1	1.6	3.3
	60歳代	92	62.0	15.2	18.5	3.3	1.1
	70歳以上	72	54.2	20.8	12.5	6.9	5.6
現在地居住年数別	1年未満	14	64.3	21.4	14.3	0.0	0.0
	2年未満	19	73.7	15.8	5.3	5.3	0.0
	3年未満	16	68.8	18.8	12.5	0.0	0.0
	5年未満	23	82.6	13.0	4.3	0.0	0.0
	10年未満	56	75.0	10.7	12.5	0.0	1.8
	20年未満	69	72.5	14.5	5.8	5.8	1.4
	30年未満	67	59.7	19.4	13.4	4.5	3.0
	30年以上	106	56.6	19.8	17.0	3.8	2.8
職業別	自営業	21	61.9	14.3	14.3	9.5	0.0
	自由業	3	33.3	66.7	0.0	0.0	0.0
	会社員	102	66.7	19.6	11.8	1.0	1.0
	公務員・教員	17	76.5	11.8	5.9	0.0	5.9
	農・林・漁業	2	50.0	0.0	50.0	0.0	0.0
	主婦・主夫(パートなど)	46	73.9	6.5	15.2	2.2	2.2
	主婦・主夫(専業)	69	68.1	20.3	5.8	4.3	1.4
	学生	10	80.0	20.0	0.0	0.0	0.0
	無職	83	56.6	18.1	16.9	4.8	3.6
	その他	16	68.8	6.3	18.8	6.3	0.0
居住区別	門司区	52	65.4	19.2	13.5	1.9	0.0
	小倉北区	74	75.7	8.1	6.8	5.4	4.1
	小倉南区	82	68.3	15.9	13.4	0.0	2.4
	若松区	31	51.6	29.0	12.9	6.5	0.0
	八幡東区	20	55.0	25.0	15.0	0.0	5.0
	八幡西区	89	61.8	19.1	12.4	5.6	1.1
	戸畑区	24	75.0	8.3	16.7	0.0	0.0
同居家族別	1人暮らし	51	66.7	13.7	11.8	7.8	0.0
	夫婦のみ	119	61.3	19.3	11.8	3.4	4.2
	親子(2世代)	164	69.5	15.2	13.4	0.6	1.2
	親・子・孫(3世代)	18	66.7	16.7	11.1	5.6	0.0
	その他	16	68.8	25.0	0.0	6.3	0.0

(注) 太字 全体よりも5ポイント以上高いもの(「その他」、「無回答」は除く)

協働してまちづくりを進めていることへの満足感

【全体的傾向】

自治会や町内会や NPO、ボランティア、企業などと行政が協働して（一緒に力を合わせ）まちづくりを進めている環境に対する、市民の満足感をみると、「とても感じている」は 5.1%、「ある程度感じている」は 27.9%、合計すると、肯定層は 33.0%である。一方、「あまり感じていない」は 20.9%、「ほとんど感じていない」は 7.3%、合計すると、否定層は 28.2%である。

肯定層（33.0%）が否定層（28.2%）を 4.8 ポイント上回っている。

【属性別にみた傾向】

- 年齢層別では、肯定層は 10・20 歳代で 19.5%と最も低く、70 歳以上で 46.0%と最も高くなっており、概ね年齢が高くなるにつれ、割合も高くなっている。逆に、否定層は 10・20 歳代で 39.1%と最も高く、70 歳以上で 20.8%と最も低くなっており、概ね年齢が低くなるにつれ、割合も高くなっている。
- 居住区別では、門司区（37.1%）が最も高く、小倉北区（27.6%）で最も低くなっている。

協働してまちづくりが進んでいないと感じる理由

【全体的傾向】

自治会や町内会や NPO、ボランティア、企業などと行政が協働して（一緒に力を合わせ）まちづくりを進めている環境だと感じられない主な理由は、「身近に協働の事例があることを知らない」（66.1%）が最も高く、次いで「市政に関する情報が不十分」（16.7%）、「市民活動に対する支援が不十分」（12.1%）の順となっている。

【属性別にみた傾向】

- 性別では、男女ともに「身近に協働の事例があることを知らない」が最も高いが、女性（71.2%）が男性（59.1%）を 12.1 ポイント上回っている。
- 年齢別では、「身近に協働の事例があることを知らない」は 10・20 歳代（84.4%）で最も高く、次いで 30 歳代（73.6%）と概ね年齢が低い層ほど高い傾向にある。
- 居住区別では、「身近に協働の事例があることを知らない」は、小倉北区（75.7%）、戸畑区（75.0%）で比較的高く、7割を上回っている。

【自由記入欄の回答状況】

自由記入欄には以下のような意見や感想があった。

- ・ 情報が分かりにくい。
- ・ 役員の方々のみが発熱にやられているが、どうすれば一緒に感じて力を合わせるができるのか、難しい問題だと思います。
- ・ 平尾台自然の郷のような、企業と市が力を合わせたような施設をもっと増やして欲しい。

(12) 市民に身近な行政について

① 市民の意見が、市政に反映されていることへの満足感

問 15 北九州市では、市政だよりやホームページを利用しての、市政に関する積極的な情報発信だけでなく、「市長への手紙」、タウンミーティングの実施などを通じて、市政に対して市民が意見を伝えることができる仕組みを整え、市政を身近に感じられるような取組を進めています。そこで、おたずねします。

あなたは、あなたの声が市政に届き、きちんと対応されていると感じますか。

N : 1,322 人

項目	回答数 (人)	割合 (%)
1 とても感じている	24	1.8
2 ある程度感じている	217	16.4
3 どちらとも言えない	503	38.0
4 あまり感じていない	352	26.6
5 ほとんど感じていない	170	12.9
無回答	56	4.2

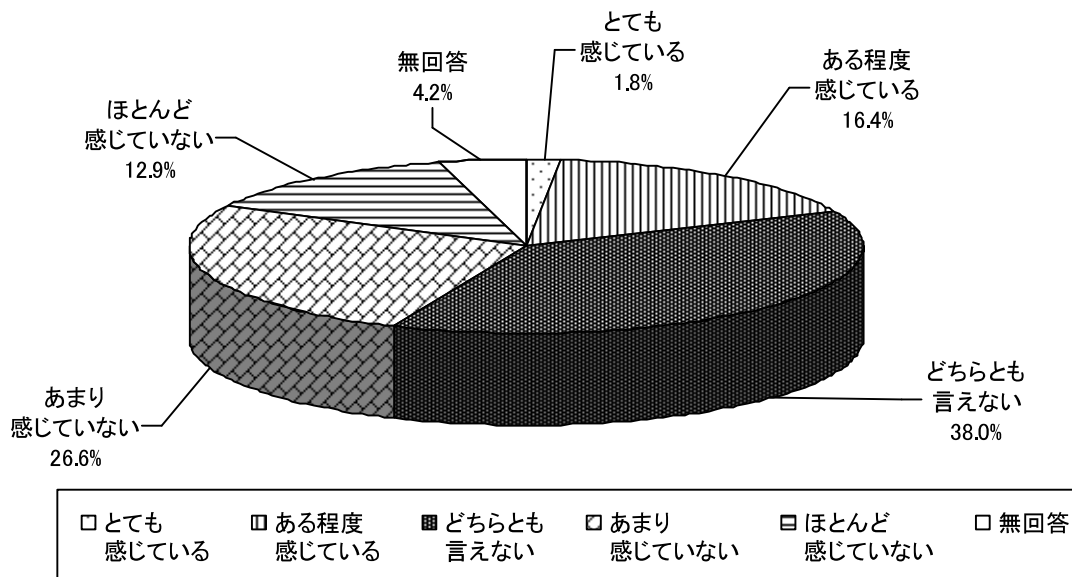
◇ 市民の意見が、市政に反映されていることへの、市民の満足感は、

・ 肯定層 18.2%

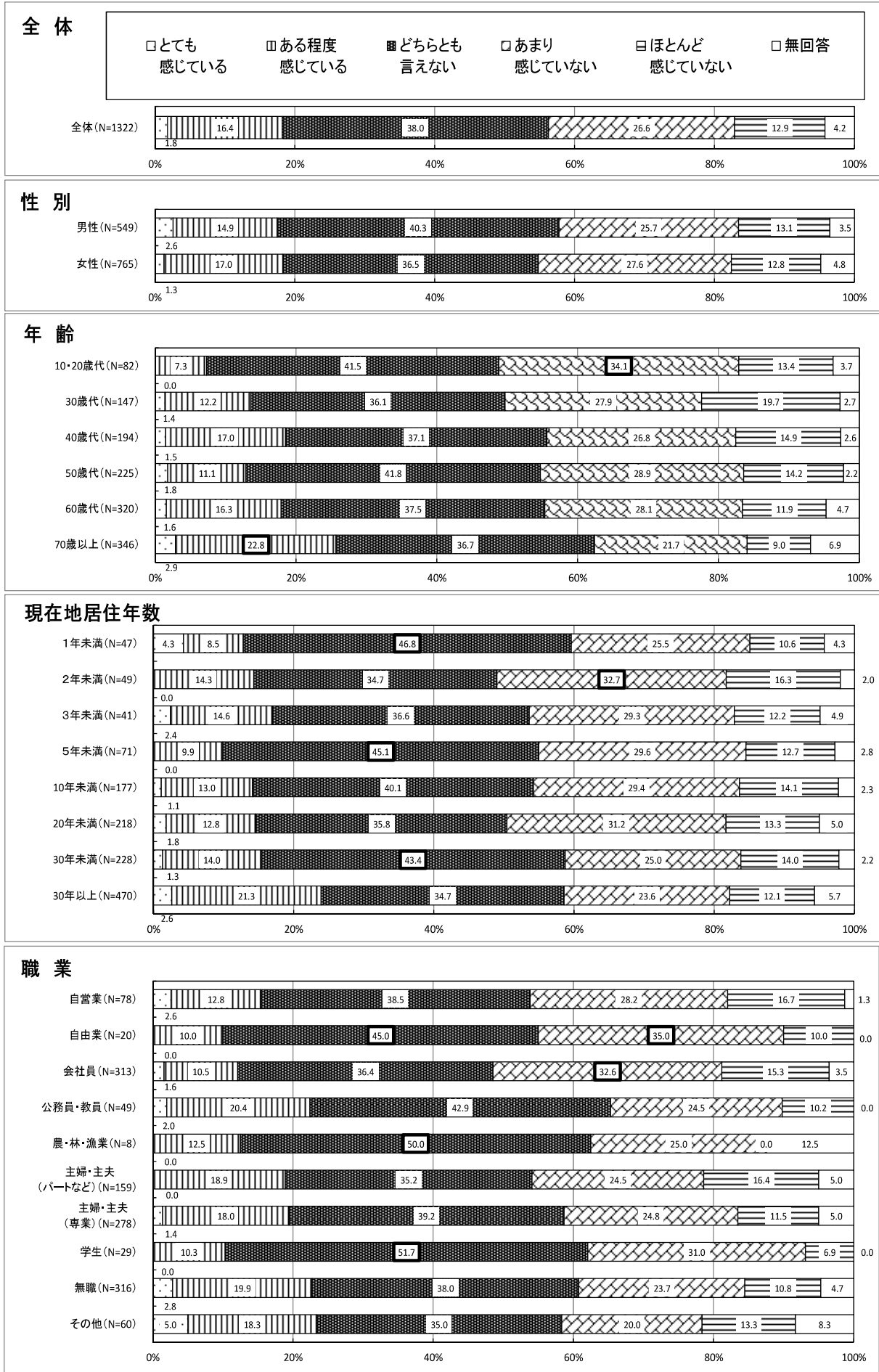
(「とても感じている」1.8%+「ある程度感じている」16.4%)

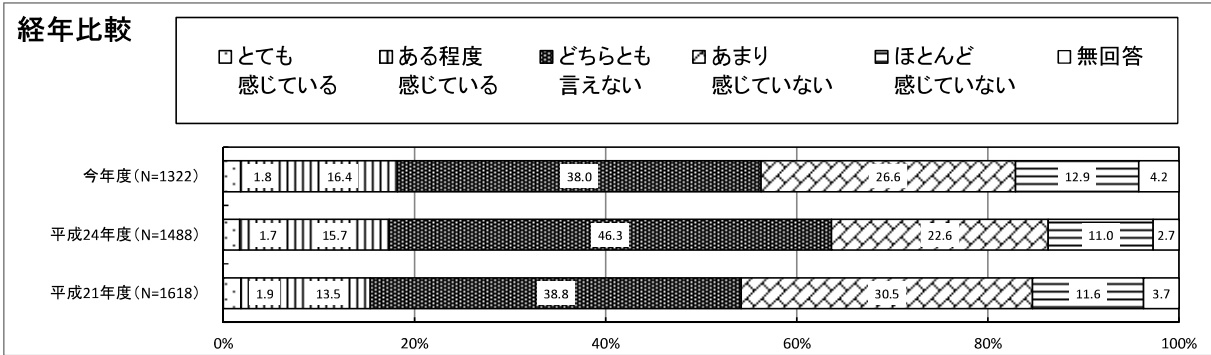
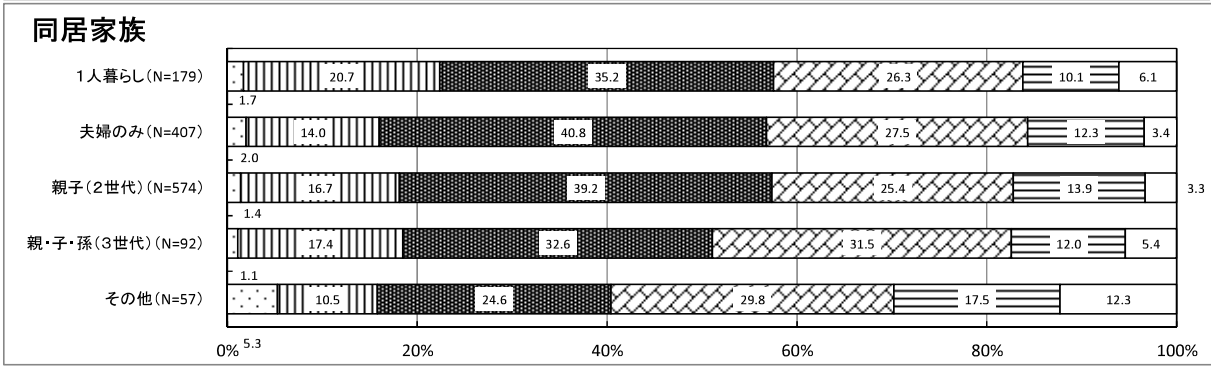
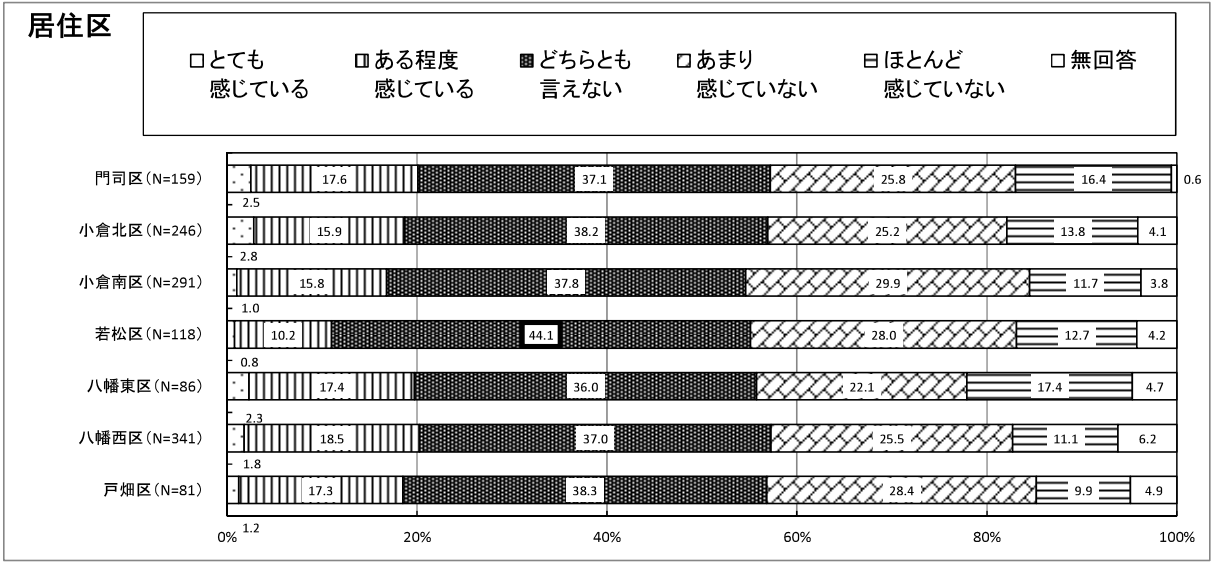
・ 否定層 39.5%

(「あまり感じていない」26.6%+「ほとんど感じていない」12.9%)



① 市民の意見が、市政に反映されていることへの満足感





(注) **太枠** 全体よりも5ポイント以上高いもの(「その他」「無回答」は除く)

② 市民の意見が、市政に反映されていると感じられない理由

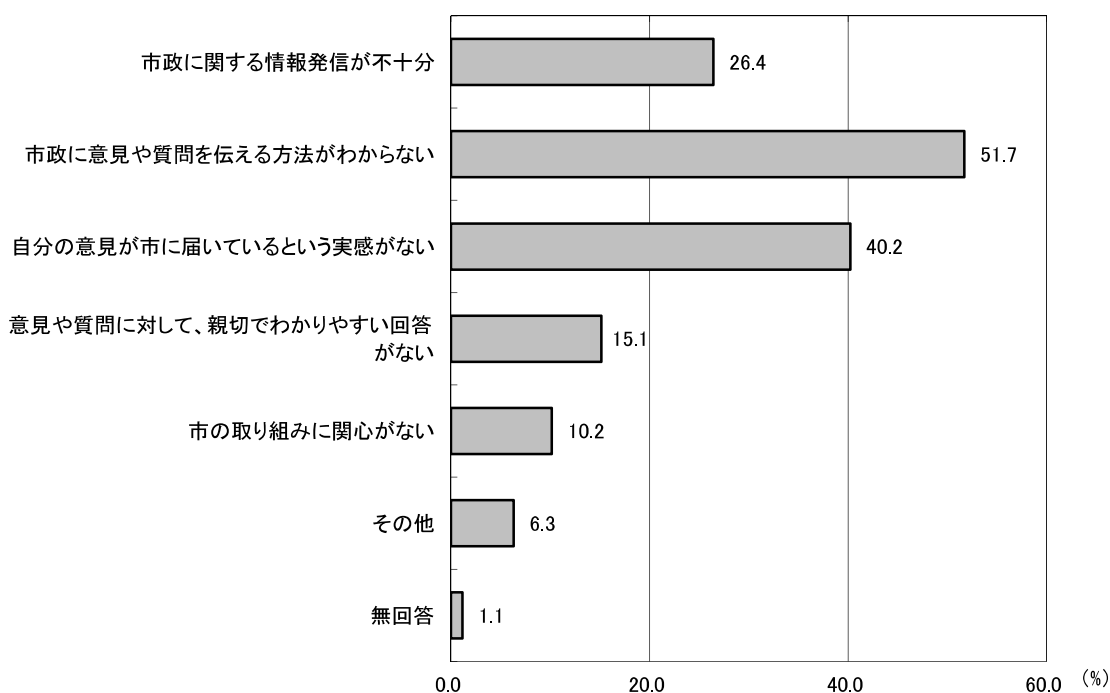
副問 15-1 (4もしくは5と選んだ)理由について、下記から主なものを2つまで選んで下さい。

N : 522 人

項目	回答数(人)	割合(%)
1 市政に関する情報発信が不十分	138	26.4
2 市政に意見や質問を伝える方法がわからない	270	51.7
3 自分の意見が市に届いているという実感がない	210	40.2
4 意見や質問に対して、親切でわかりやすい回答がない	79	15.1
5 市の取り組みに関心がない	53	10.2
7 その他	33	6.3
無回答	6	1.1

◇ 市民の意見が、市政に反映されていると感じられない主な理由は、

- 1位 「市政に意見や質問を伝える方法がわからない」(51.7%)
- 2位 「自分の意見が市に届いているという実感がない」(40.2%)
- 3位 「市政に関する情報発信が不十分」(26.4%)



② 市民の意見が、市政に反映されていると感じられない理由

		サンプル数	市政に関する情報発信が不十分	市政に意見や質問を伝える方法がわからない	自分の意見が市に届いているという実感がない	意見や質問に対して、親切でわかりやすい回答がない	市の取り組みに関心がない	その他	無回答
全体		522	26.4	51.7	40.2	15.1	10.2	6.3	1.1
性別	男性	213	29.6	50.7	43.7	15.5	10.8	5.6	0.9
	女性	309	24.3	52.4	37.9	14.9	9.7	6.8	1.3
年齢別	10・20歳代	39	17.9	59.0	23.1	10.3	20.5	17.9	0.0
	30歳代	70	34.3	42.9	48.6	12.9	8.6	10.0	1.4
	40歳代	81	32.1	43.2	46.9	16.0	8.6	6.2	1.2
	50歳代	97	26.8	54.6	43.3	14.4	8.2	4.1	0.0
	60歳代	128	30.5	50.8	35.9	18.8	10.2	4.7	1.6
	70歳以上	106	15.1	60.4	37.7	14.2	10.4	3.8	1.9
現在地居住年数別	1年未満	17	47.1	52.9	29.4	17.6	5.9	11.8	0.0
	2年未満	24	33.3	45.8	41.7	16.7	12.5	8.3	0.0
	3年未満	17	29.4	52.9	41.2	11.8	0.0	0.0	0.0
	5年未満	30	16.7	63.3	33.3	16.7	13.3	6.7	3.3
	10年未満	77	33.8	57.1	41.6	7.8	14.3	5.2	0.0
	20年未満	97	16.5	56.7	43.3	12.4	8.2	7.2	2.1
	30年未満	89	37.1	43.8	36.0	15.7	11.2	4.5	1.1
	30年以上	168	21.4	50.0	41.7	19.0	9.5	7.1	1.2
職業別	自営業	35	17.1	34.3	45.7	22.9	11.4	11.4	2.9
	自由業	9	33.3	88.9	22.2	0.0	11.1	0.0	0.0
	会社員	150	27.3	45.3	46.0	15.3	10.0	7.3	1.3
	公務員・教員	17	35.3	64.7	47.1	17.6	0.0	0.0	0.0
	農・林・漁業	2	50.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	主婦・主夫(パートなど)	65	30.8	50.8	43.1	13.8	9.2	7.7	1.5
	主婦・主夫(専業)	101	25.7	48.5	36.6	14.9	9.9	6.9	1.0
	学生	11	18.2	54.5	27.3	0.0	27.3	18.2	0.0
	無職	109	21.1	62.4	34.9	15.6	12.8	2.8	0.9
	その他	20	40.0	60.0	40.0	15.0	0.0	5.0	0.0
居住区別	門司区	67	19.4	52.2	43.3	17.9	10.4	4.5	0.0
	小倉北区	96	25.0	52.1	33.3	20.8	9.4	8.3	4.2
	小倉南区	121	25.6	57.0	38.8	9.9	13.2	4.1	0.0
	若松区	48	22.9	50.0	41.7	10.4	14.6	8.3	0.0
	八幡東区	34	32.4	32.4	44.1	29.4	5.9	11.8	0.0
	八幡西区	125	33.6	52.8	43.2	13.6	5.6	7.2	1.6
	戸畑区	31	19.4	48.4	41.9	9.7	16.1	0.0	0.0
同居家族別	1人暮らし	65	27.7	49.2	30.8	16.9	15.4	7.7	0.0
	夫婦のみ	162	29.6	51.2	42.0	15.4	9.3	3.7	0.6
	親子(2世代)	226	24.3	53.5	41.6	14.2	9.3	8.0	1.8
	親・子・孫(3世代)	40	27.5	52.5	42.5	12.5	10.0	5.0	0.0
	その他	27	18.5	44.4	40.7	22.2	7.4	7.4	3.7

(注) 太字 全体よりも5ポイント以上高いもの(「その他」、「無回答」は除く)

市民の意見が、市政に反映されていることへの満足感

【全体的傾向】

市民の意見が、市政に反映されていることへの満足感をみると、「とても感じている」は1.8%、「ある程度感じている」は16.4%、合計すると、肯定層は18.2%である。一方、「あまり感じていない」は26.6%、「ほとんど感じていない」は12.9%、合計すると、否定層は39.5%である。否定層（39.5%）が肯定層（18.2%）を21.3ポイント上回っている。

【属性別にみた傾向】

- 年齢別にみると、概ね年齢の低いほど否定層の割合が高くなっており、30歳代（47.6%）で最も高く、次いで10・20歳代（47.5%）、50歳代（43.1%）、40歳代（41.7%）と続き、70歳以上を除く年齢層で4割以上を占めている。

【経年比較】

今年度の調査結果を、平成21年度及び24年度調査結果と比較したところ、肯定層は、平成21年度15.4%→平成24年度17.4%→今年度18.2%と、少しずつではあるが毎回高くなっている。一方、否定層は、平成21年度（42.1%）に対し平成24年度（33.6%）は低くなったが、今年度（39.5%）は高くなっている。

市民の意見が、市政に反映されていると感じられない理由

【全体的傾向】

市民の意見が、市政に反映されていると感じられない主な理由は、「市政に意見や質問を伝える方法がわからない」（51.7%）が最も高く、次いで「自分の意見が市に届いているという実感がない」（40.2%）、「市政に関する情報発信が不十分」（26.4%）の順となっている。

【属性別にみた傾向】

- 年齢別にみると、「市政に意見や質問を伝える方法がわからない」は70歳以上で60.4%と最も高く、次いで10・20歳代で59.0%と続き、これらの層で比較的高くなっている。また、10・20歳代では「市の取り組みに関心がない」が20.5%と、唯一2割を上回っている。
- 居住区別にみると、「意見や質問に対して、親切でわかりやすい回答がない」は八幡東区（29.4%）と特に高くなっている。

【自由記入欄の回答状況】

自由記入欄には以下のような意見や感想があった。

- ・ 町内会がないので、市政だよりを見る機会が少ない。
- ・ 対応されているなら分りやすくアピールしてほしい。
- ・ パソコン（スマートフォン）を使用していないので、情報はテレビとラジオのみである。
- ・ ある定数以上の要望に対しては、全て回答する様にするなどを行うべきだ。現状の要望に対して、一部のみの回答を公開しても、それは公開してもOKな内容のものを選定しているのであって、公平な情報公開とはいえない。

(13) 雇用の機会について

① 市が取り組む人材育成・就業支援に対する満足感

問 16 北九州市では、就業に必要な能力開発の機会の提供や就業相談の実施など、地元企業で活躍できる人材の育成、就業の支援に取り組んでいます。そこで、おたずねします。

あなたは、北九州市が取り組んでいる人材育成・就業支援は十分であると感じますか。

N : 1,322 人

項目	回答数 (人)	割合 (%)
1 とても感じている	23	1.7
2 ある程度感じている	255	19.3
3 どちらとも言えない	549	41.5
4 あまり感じていない	326	24.7
5 ほとんど感じていない	103	7.8
無回答	66	5.0

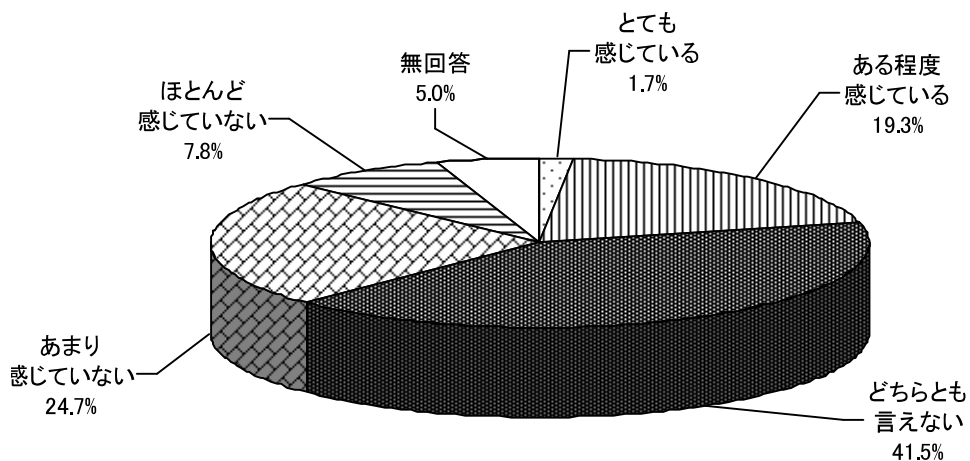
◇ 市の人材育成・就業支援は十分であることへの、市民の満足感は、

・肯定層 21.0%

(「とても感じている」1.7%+「ある程度感じている」19.3%)

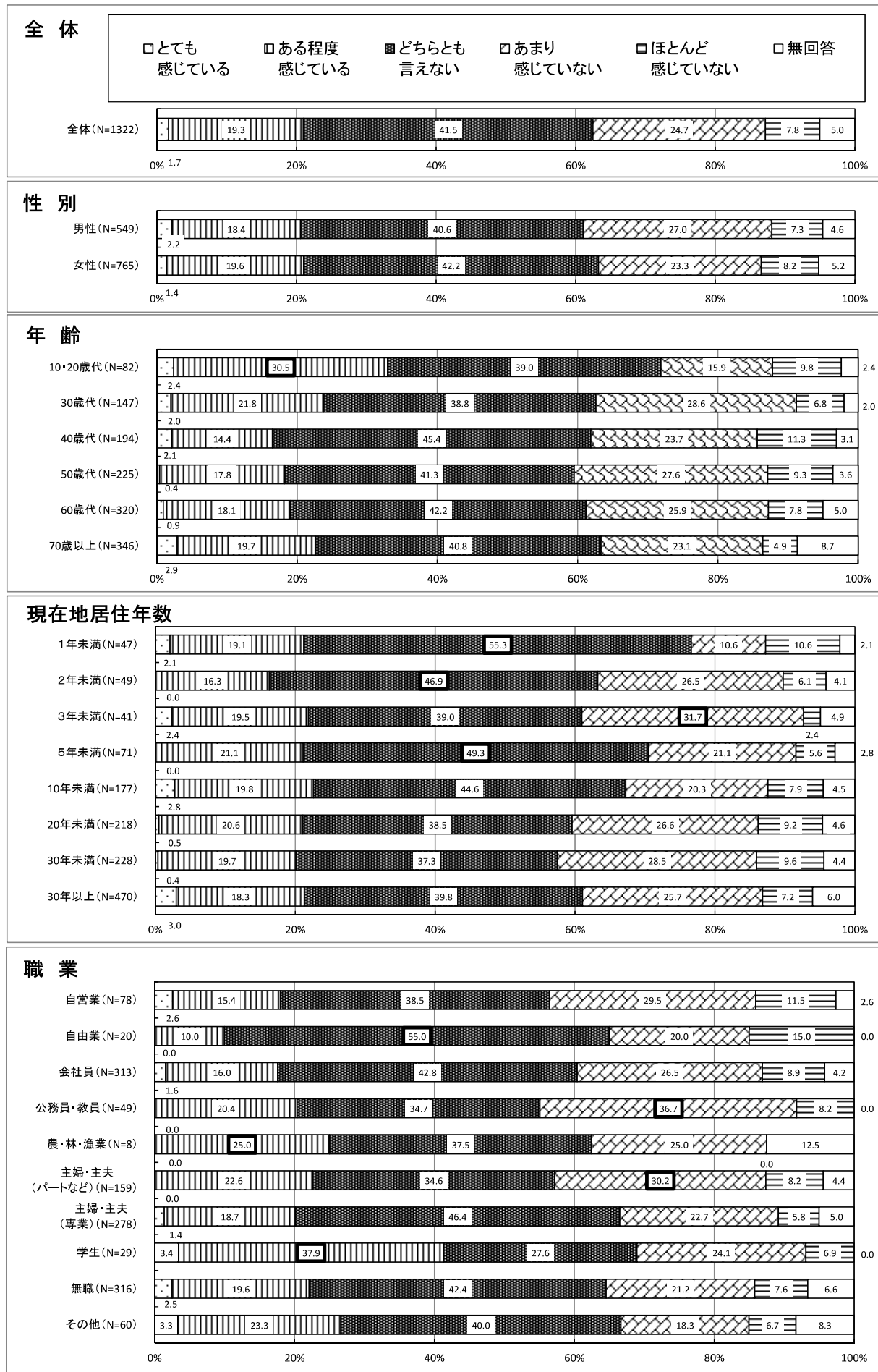
・否定層 32.5%

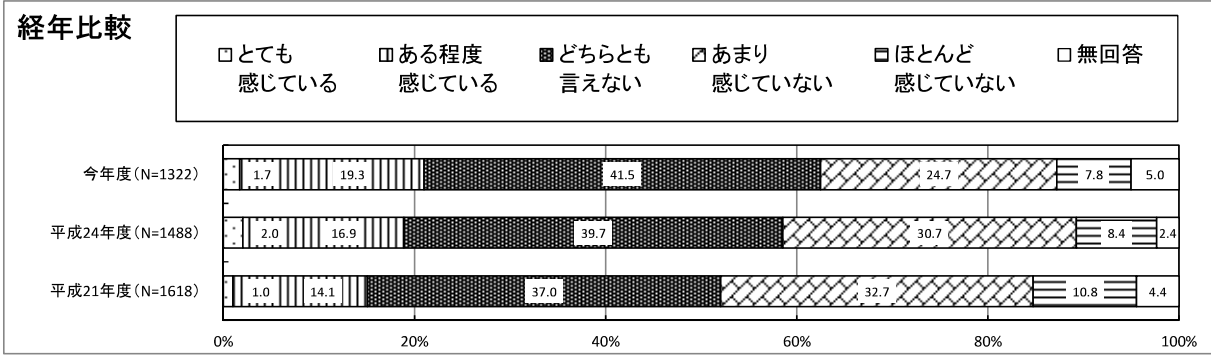
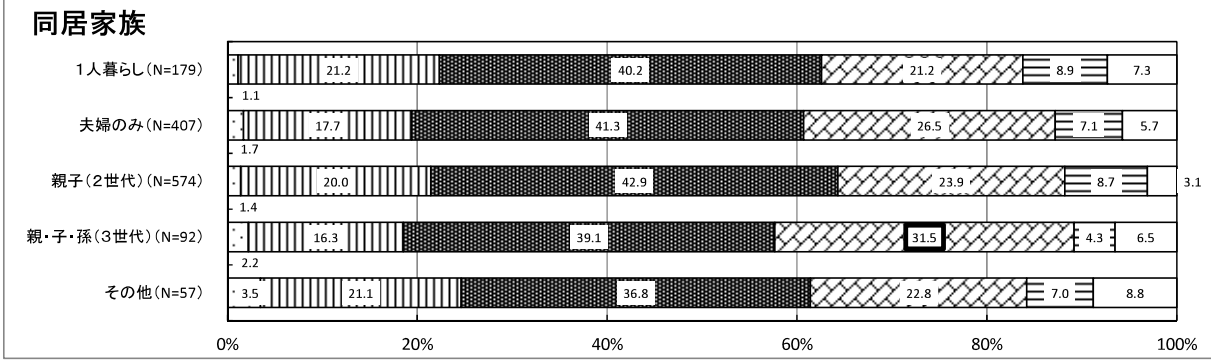
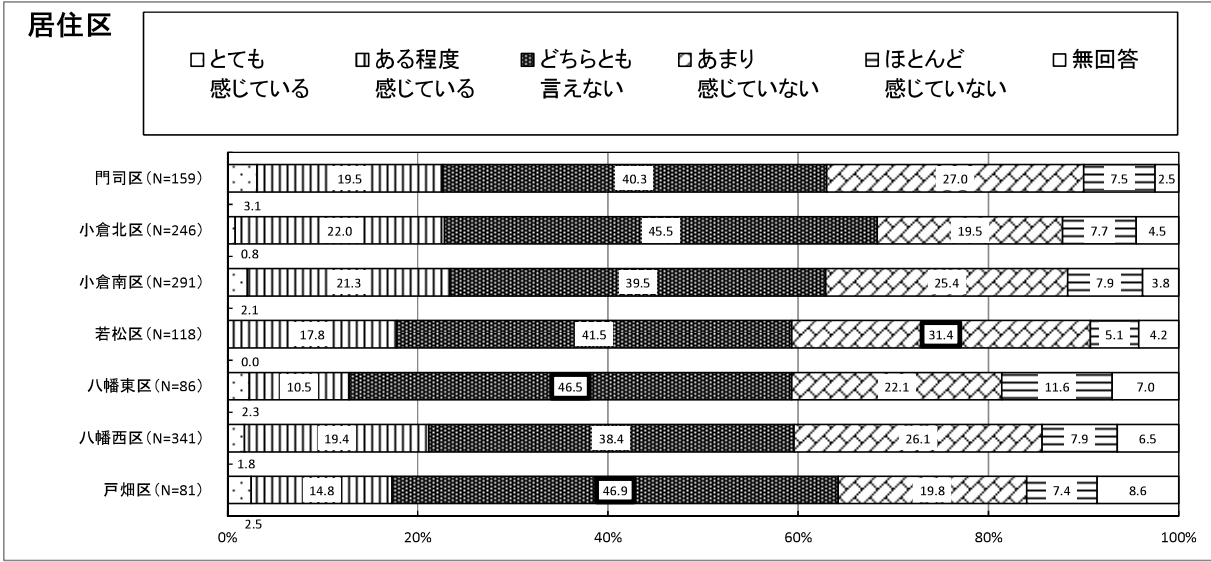
(「あまり感じていない」24.7%+「ほとんど感じていない」7.8%)



□とても感じている □ある程度感じている ■どちらとも言えない □あまり感じていない □ほとんど感じていない □無回答

① 市が取り組む人材育成・就業支援に対する満足感





(注) **太枠** 全体よりも5ポイント以上高いもの(「その他」「無回答」は除く)

② 市が取り組む人材育成・就業支援が十分とは感じられない理由

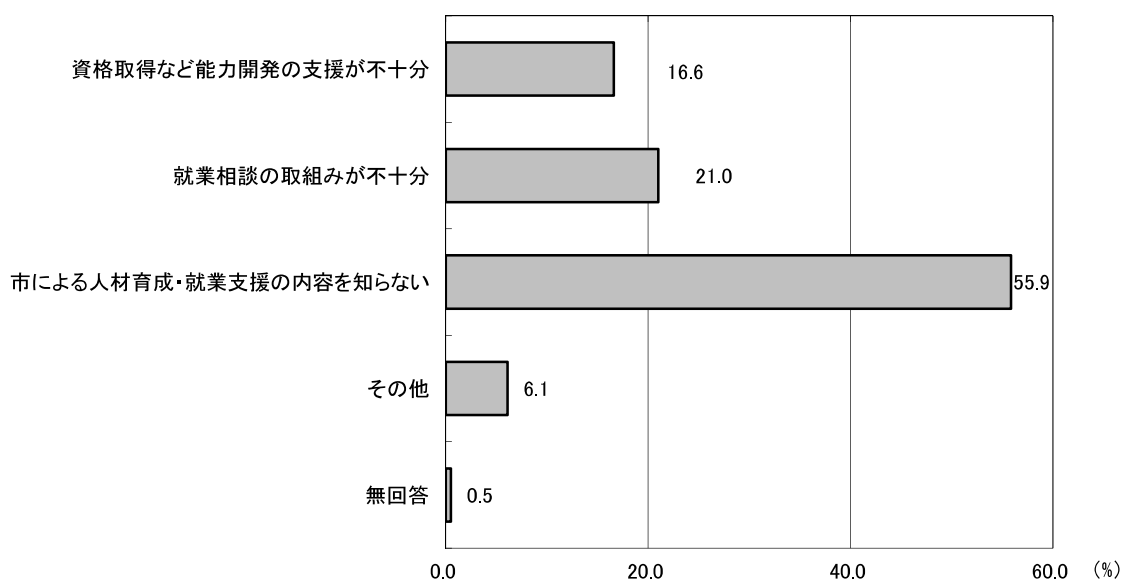
副問 16-1 (4もしくは5と選んだ)理由について、下記から主なものを1つまで選んで下さい。

N : 429 人

項目	回答数(人)	割合(%)
1 資格取得など能力開発の支援が不十分	71	16.6
2 就業相談の取組みが不十分	90	21.0
3 市による人材育成・就業支援の内容を知らない	240	55.9
4 その他	26	6.1
無回答	2	0.5

◇ 市が取り組む人材育成・就業支援が十分とは感じられない主な理由は、

- 1位 「市による人材育成・就業支援の内容を知らない」(55.9%)
- 2位 「就業相談の取組みが不十分」(21.0%)
- 3位 「資格取得など能力開発の支援が不十分」(16.6%)



② 市が取り組む人材育成・就業支援が十分とは感じられない理由

		サンプル数	資格取得など能力開発の支援が不十分	就業相談の取組みが不十分	市による人材育成・就業支援の内容を知らない	その他	無回答
全体		429	16.6	21.0	55.9	6.1	0.5
性別	男性	188	17.6	25.5	52.1	4.3	0.5
	女性	241	15.8	17.4	58.9	7.5	0.4
年齢別	10・20歳代	21	4.8	28.6	42.9	23.8	0.0
	30歳代	52	25.0	13.5	51.9	7.7	1.9
	40歳代	68	20.6	20.6	52.9	5.9	0.0
	50歳代	83	21.7	22.9	49.4	6.0	0.0
	60歳代	108	13.0	22.2	62.0	2.8	0.0
	70歳以上	97	11.3	20.6	61.9	5.2	1.0
現在地居住年数別	1年未満	10	20.0	30.0	40.0	10.0	0.0
	2年未満	16	18.8	43.8	37.5	0.0	0.0
	3年未満	14	14.3	14.3	71.4	0.0	0.0
	5年未満	19	31.6	21.1	42.1	5.3	0.0
	10年未満	50	20.0	8.0	64.0	8.0	0.0
	20年未満	78	11.5	21.8	57.7	7.7	1.3
	30年未満	87	23.0	20.7	47.1	9.2	0.0
	30年以上	155	12.3	22.6	60.6	3.9	0.6
職業別	自営業	32	15.6	21.9	56.3	6.3	0.0
	自由業	7	14.3	0.0	71.4	14.3	0.0
	会社員	111	27.0	22.5	43.2	6.3	0.9
	公務員・教員	22	9.1	13.6	77.3	0.0	0.0
	農・林・漁業	2	50.0	0.0	50.0	0.0	0.0
	主婦・主夫(パートなど)	61	18.0	19.7	52.5	9.8	0.0
	主婦・主夫(専業)	79	13.9	22.8	58.2	5.1	0.0
	学生	9	0.0	33.3	55.6	11.1	0.0
	無職	91	11.0	19.8	62.6	5.5	1.1
	その他	15	0.0	26.7	73.3	0.0	0.0
居住区別	門司区	55	14.5	20.0	63.6	1.8	0.0
	小倉北区	67	22.4	17.9	50.7	6.0	3.0
	小倉南区	97	13.4	26.8	56.7	3.1	0.0
	若松区	43	18.6	16.3	58.1	7.0	0.0
	八幡東区	29	13.8	17.2	58.6	10.3	0.0
	八幡西区	116	15.5	20.7	56.0	7.8	0.0
	戸畑区	22	22.7	22.7	40.9	13.6	0.0
同居家族別	1人暮らし	54	14.8	33.3	46.3	5.6	0.0
	夫婦のみ	137	13.9	18.2	62.0	5.1	0.7
	親子(2世代)	187	18.2	21.4	52.9	7.0	0.5
	親・子・孫(3世代)	33	15.2	15.2	63.6	6.1	0.0
	その他	17	23.5	11.8	58.8	5.9	0.0

(注) **太字** 全体よりも5ポイント以上高いもの(「その他」、「無回答」は除く)

市が取り組む人材育成・就業支援に対する満足感

【全体的傾向】

市が取り組む人材育成・就業支援に対する、市民の満足感をみると、「とても感じている」は1.7%、「ある程度感じている」は19.3%、合計すると、肯定層は21.0%である。一方、「あまり感じていない」は24.7%、「ほとんど感じていない」は7.8%、合計すると、否定層は32.5%である。

否定層（32.5%）が肯定層（21.0%）を11.5ポイント上回っている。

【属性別にみた傾向】

- 年齢別にみると、10・20歳代のみ肯定層が否定層を上回っているが、30歳代以上では否定層が肯定層を上回っている。

【経年比較】

今年度の調査結果を、平成21年度及び24年度調査結果と比較したところ、肯定層は、平成21年度15.1%→平成24年度18.9%→今年度21.0%と、毎回高くなっている。逆に否定層は、平成21年度43.5%→平成24年度39.1%→今年度32.5%と、毎回低くなっている。

市が取り組む人材育成・就業支援が十分とは感じられない理由

【全体的傾向】

市が取り組む人材育成・就業支援が十分とは感じられない主な理由は、「市による人材育成・就業支援の内容を知らない」(55.9%)が最も高く、次いで「就業相談の取組みが不十分」(21.0%)、「資格取得など能力開発の支援が不十分」(16.6%)の順となっている。

【属性別にみた傾向】

- 年齢別にみると、「市による人材育成・就業支援の内容を知らない」は、10・20歳代では42.9%と最も低く、60歳代で62.0%、70歳以上で61.9%と、概ね年齢が高くなるにつれ、割合が高くなっている。
- 職業別にみると、「市による人材育成・就業支援の内容を知らない」は、公務員・教員で77.3%と特に高くなっている。

【自由記入欄の回答状況】

自由記入欄には以下のような意見や感想があった。

- ・ 取組の内容が、実経済と乖離している。
- ・ 就業相談員のスキル向上が必要。

(14) 北九州市の魅力について

① 市外からの来訪者に対して、自慢できるものの有無

問 17 北九州市では、環境における先進的な取り組みや、ものづくりのまちとしての発展を支えてきた技術やノウハウ、豊かな自然や文化に育まれた特産品などの強みを活かした魅力づくりに取り組んでいます。

また、映画・テレビドラマ等のロケを通じた新たな魅力づくりや、テレビ・雑誌等を使った魅力の発信にも取り組んでいます。そこで、おたずねします。

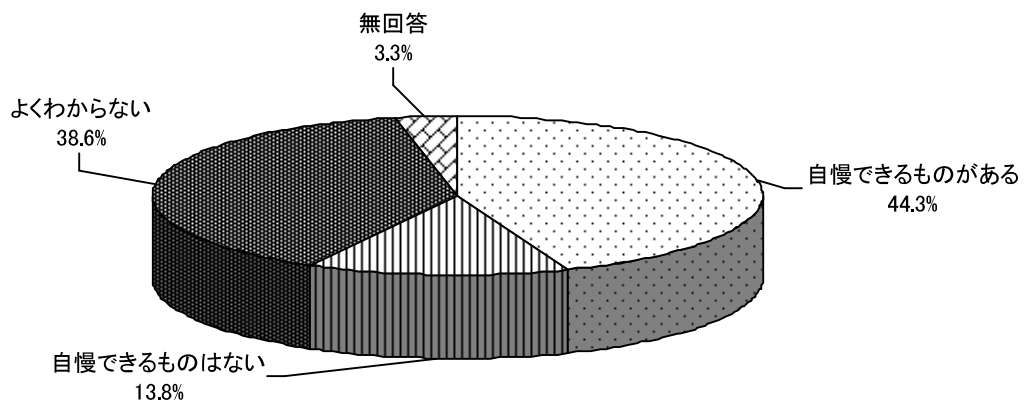
あなたは、北九州市には市外からの来訪者に自慢できる偉人や先進的な取り組み、食べ物、イベント、景勝地などがあると感じますか。

N : 1,322 人

項目	回答数 (人)	割合 (%)
1 自慢できるものがある	586	44.3
2 自慢できるものはない	183	13.8
3 よくわからない	510	38.6
無回答	43	3.3

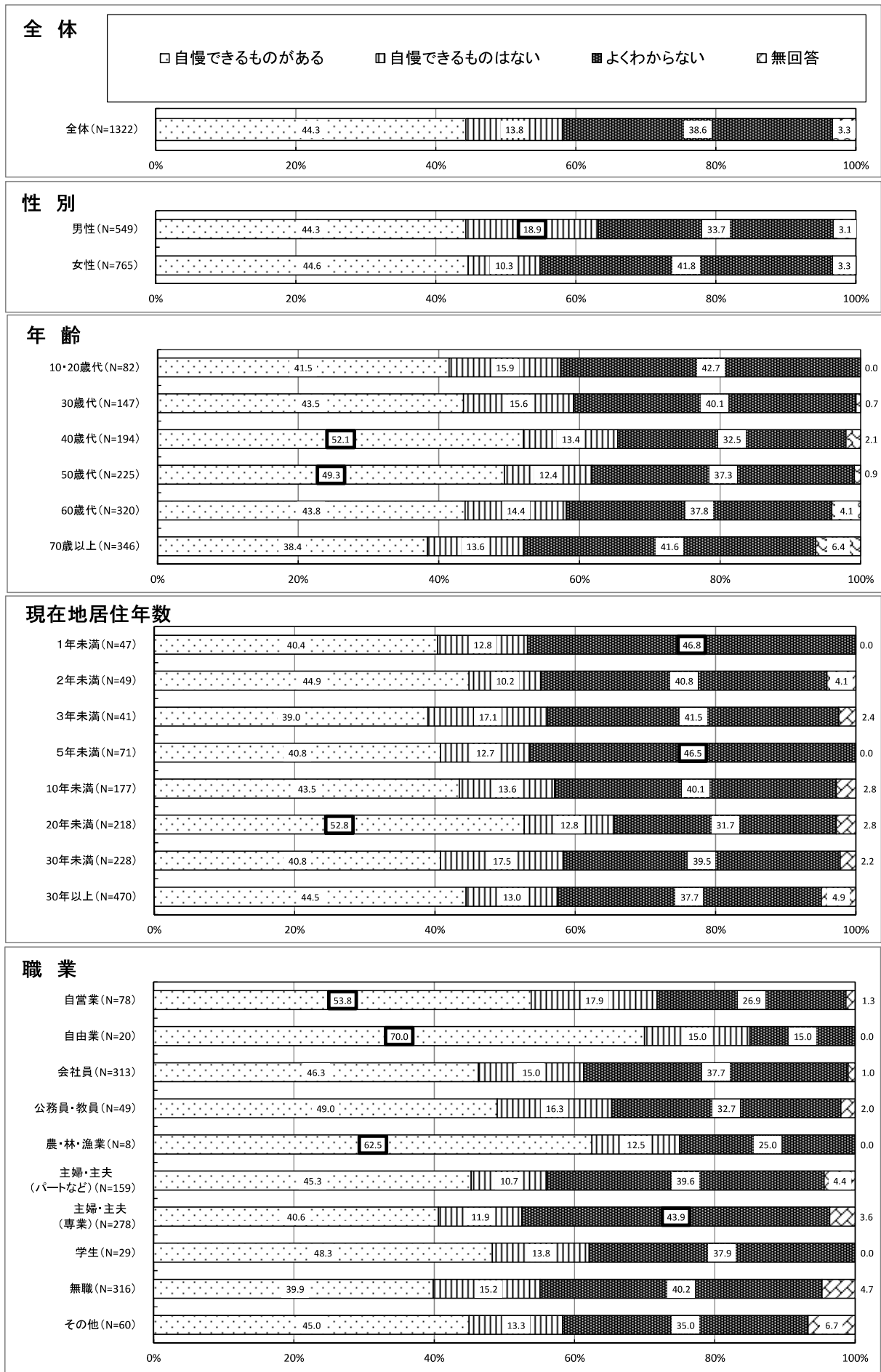
◇ 市外からの来訪者に対して、

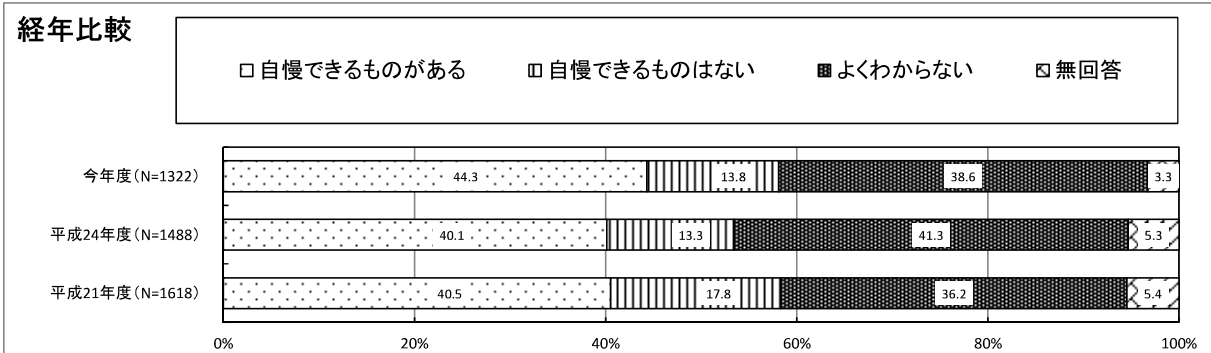
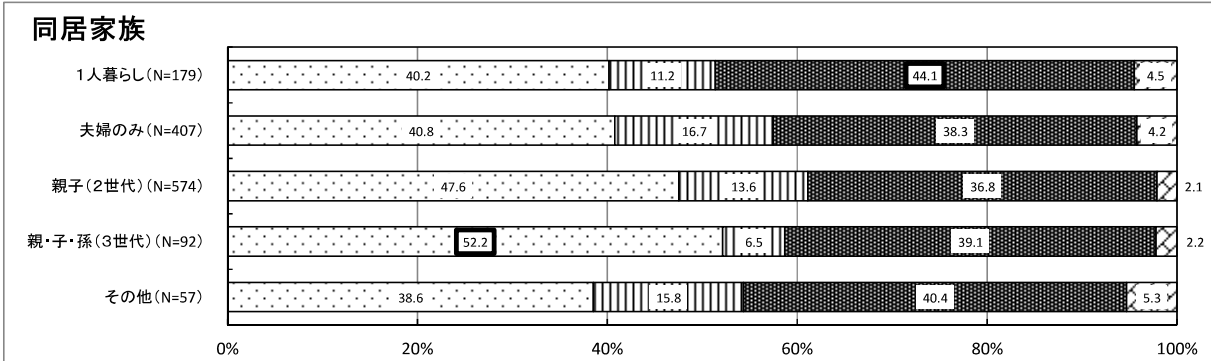
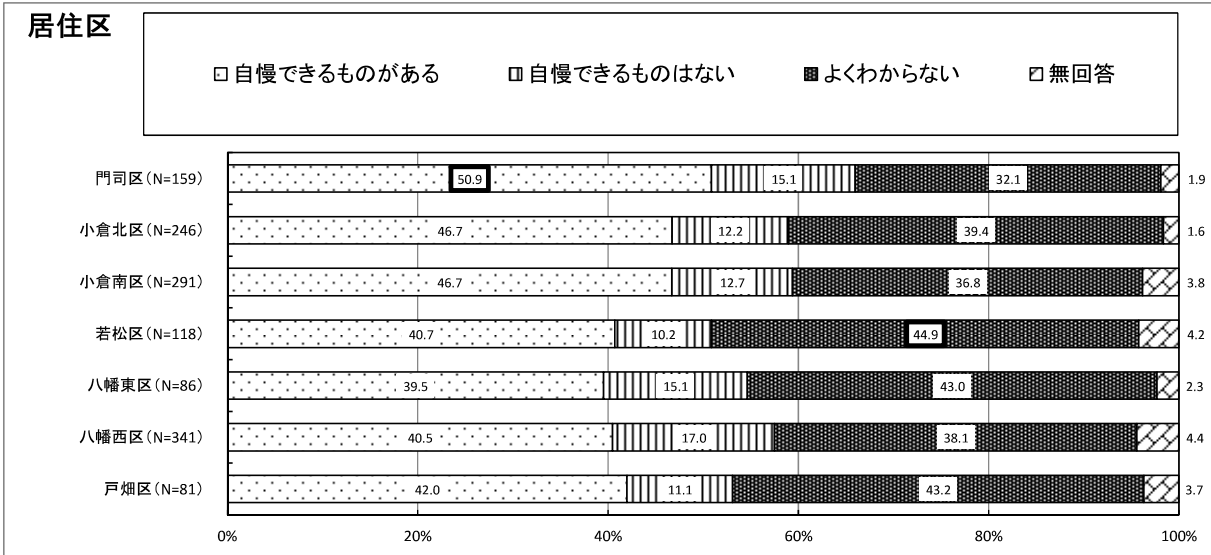
- 1位 「自慢できるものがある」(44.3%)
- 2位 「よくわからない」(38.6%)
- 3位 「自慢できるものはない」(13.8%)



□ 自慢できるものがある ▨ 自慢できるものはない ■ よくわからない □ 無回答

① 市外からの来訪者に対して、自慢できるものの有無





(注) **太枠** 全体よりも5ポイント以上高いもの(「その他」「無回答」は除く)

市外からの来訪者に対して、自慢できるものの有無

【全体的傾向】

市外からの来訪者に対して、自慢できるものの有無をみると、「自慢できるものがある」は44.3%、「よくわからない」は38.6%、「自慢できるものはない」は13.8%となり、肯定層（44.3%）が否定層（13.8%）を30.5ポイント上回っている。

【属性別にみた傾向】

- 居住区別みると、「自慢できるものがある」は、門司区で50.9%と最も高く、5割を上回っている。一方、八幡東区は39.5%と最も低くなっている。

【経年比較】

今年度の調査結果を、平成21年度及び24年度調査結果と比較したところ、肯定層は、平成21年度（58.3%）に対し、平成24年度（53.4%）は低くなったが、今年度（58.1%）は高くなった。否定層は、平成21年度で5.4%と元々低かったが、平成24年度5.3%→今年度3.3%と、若干低くなっている。

【市外からの来訪者に対して、自慢できるもの】

今年度の調査結果を、平成21年度及び24年度調査結果と比較したところ、肯定層は、平成21年度（58.3%）に対し、平成24年度（53.4%）は低くなったが、今年度（58.1%）は高くなった。否定層は、平成21年度で5.4%と元々低かったが、平成24年度5.3%→今年度3.3%と、若干低くなっている。